

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	後藤 郁子 【人間発達科学専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	小学校初任教師の成長・発達の契機から捉えた育成論の構築 ―協働学習を通じた管理職の形式的介入に視点を当てて―	<p>後藤氏の論文審査会は、2013年6月12日の代議員会で承認され、同17日に第一回審査会を開催した。第一回審査会において後藤氏の論文は、近年、初任教師の数が飛躍的に増加しているにもかかわらず、即戦力になりえないままに多くの課題を抱え込んでいる初任教師が成長・発達するためには、何が必要なのか、というきわめて今日的で、かつ急務の問題に真摯にとりくんだものとして、高く評価された。その分析結果は非常に貴重なものであると評価される一方で、アンケート調査、フィールドワーク、参与観察、インタビュー、授業実践と多様な方法を駆使して進められた研究であるが故に、論文の構成に関して、修正の必要性が議論された。</p> <p>これをうけて、修正論文が提出され、7月24日には、第二回審査会が開催された。第二回審査会では、第一回の審査を受けて修正された点を中心にコメントがなされた。特に、エンゲストロームの理論に関する部分について、近年のエンゲストロームの議論の変化をふまえて、さらに、精緻化していくことが求められた。そのため、第二回の審査会で求められたコメントに対する修正点を確認するためにも、第三回審査会を開催することとなった。</p> <p>第三回の審査会では、執筆者本人による論文に関するプレゼンテーションが行われ、審査員からの質問に執筆者が答える形で進められた。また、第二回での修正点が適切に修正されているのか確認され、さらに若干の微修正が求められた。</p> <p>これをうけて、論文の微修正がおこなわれたのち、9月2日10時より本館一階135室において公開発表会が開催され、最終審査会がおこなわれた。最終審査会では、公開発表会での執筆者自身によるプレゼンテーションも整理されたものであり、質疑にも適切に応答がなされたことが確認された。本論文は十分に博士論文の水準に達しており、加えて、現代の学校現場にとっての意義は非常に高いものであることから、博士（社会科学）、Ph.D. in Education にふさわしい論文であると評価された。</p>
審査委員	(主査) 教授 小玉 亮子	
	准教授 刑部 育子	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 内藤 俊史	
インターネット公表	<p>○ 学位論文のインターネット全文公表は、将来的には可ですが、しばらくの公開の猶予を希望します。</p> <p>○ 理由</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	
	教授 浜口 順子	